

TOPICS

1

岡山大学J-PEAKSシンポジウムを開催！

本学は長期ビジョン2050「地域と地球の未来を共創し、世界の革新に寄与する研究大学」の実現のため、「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）」において、研究力強化・イノベーション創出を推進しています。今回は1月27日に岡山コンベンションセンター（岡山市北区）で開催した「岡山大学J-PEAKSシンポジウム」について紹介します。

本シンポジウムは、午前「全体会」、午後「取組別セッション」の2部構成で実施し、対面・オンライン合わせて300名以上が参加。全体会開会では、本学データサイエンス部（DS部）の学生が制作した那須保友学長のアバターによるメッセージが上映され、その後”生身”の那須学長が登壇し、挨拶しました。内閣府の上山隆大本府参与（元CSTI常勤議員）による、「大学経営フロンティアからのゲーム進化」と題した基調講演では、今後、大学が独自のモデルや社会的役割をあらためて再点検し、分化する時代に入っていることが示されました。

続いて、那須学長が、「J-PEAKSを活用した大学経営改革」と題し、岡山大学が推進する取組を紹介しました。国内大学同士の疲労感を伴う「競争」から、共にワクワクしながら挑戦する「共創」へ進めていくため、その成果を他機関へ展開していく方針が共有されました。

パネルディスカッションでは、九州工業大学の三宅智実副学長、千葉大学の山本智久学長特別補佐、長岡技術科学大学の中山忠親特命副学長をパネリストとして迎え、本学のJ-PEAKSリエゾンである佐藤法仁副理事・副学長・上級URAの進行のもと、「社会変革を成すために、J-PEAKS大学群で共にできることは何か？」という視点で議論が行われました。

最後に、日本学術振興会（JSPS）のJ-PEAKS伴走支援チームの本学サポーターである名古屋大学未来社会創造機構の藤巻朗特任教授による総括と、本学の三村由香里理事が閉会の挨拶で全体会を締めくくりました。



DS部作成の那須学長アバターによる挨拶



上山隆大内閣府本府参与による基調講演



那須学長による本学の取組紹介



パネルディスカッションの様子

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15058.html

午後の取組別セッションでは、「第3回岡山大学－信州大学連携シンポジウム」、「共生型連合体による地方創生の新潮流－大学間連携が拓く地域産業と人材の未来－」、「『知と技術を繋ぎ、“支えあう力”を育てる』～暗黙知の共有から生まれる、共創の未来へ～」、「J-PEAKS事務局 未来共創ワークショップ」の4つのセッションを開催しました。

「第3回岡山大学－信州大学連携シンポジウム」では、人工光合成や水・エネルギー、材料、資源循環といった分野を基軸に、AIやロボティクスも含めた両大学の強みとなる研究領域において、J-PEAKSを活用した研究実績や課題について発表を行いました。

「共生型連合体による地方創生の新潮流－大学間連携が拓く地域産業と人材の未来－」では、大学間連携を基盤に地域課題の解決と新たな価値創出をどのように進めていくかを2つのテーマから具体的な事例を交えながら議論しました。

「『知と技術を繋ぎ、“支えあう力”を育てる』～暗黙知の共有から生まれる、共創の未来へ～」では、大学内に蓄積された「暗黙知」の共有に着目し、講演とワークショップを通じて、職種や立場を超えた共創と支え合いをどのように促進していけるのかを検討しました。

「J-PEAKS事務局 未来共創ワークショップ」では、J-PEAKS採択大学から主に事務担当者から寄せられた課題を共有し、解決策を議論しました。

参加者からは、「全体会を含め、大変参考になった」、「今後のアクションにつながる有意義なプログラム構成だった」、「自身の業務に生かしたい」といった声が寄せられ、参加者の皆さんにとって有意義な時間になったことがうかがえ、そして何より「次につながる知の場」となりました。



第3回岡山大学－信州大学連携シンポジウムの様子



「共生型連合体による地方創生の新潮流－大学間連携が拓く地域産業と人材の未来－」の様子



「知と技術を繋ぎ、“支えあう力”を育てる』～暗黙知の共有から生まれる、共創の未来へ～の様子



未来共創ワークショップの様子



参考 <https://j-peaks.orzd.okayama-u.ac.jp/research-excellence/2026sinpojiumu1/>



参考 <https://j-peaks.orzd.okayama-u.ac.jp/innovation/2026sinpojiumu2/>



参考 <https://j-peaks.orzd.okayama-u.ac.jp/research-environment/2026sinpojiumu3/>



参考 <https://j-peaks.orzd.okayama-u.ac.jp/research-excellence/2026sinpojiumu4/>

○那須保友学長のコメント

全体会、取り組み別セッションにおいて、本学の取り組みや他大学と「共に出来ることは共に」社会変革を目指す姿を共有することができたシンポジウムになりました。

全体会では、内閣府の上山隆大本府参与に基調講演をいただき、今後の大学独自のモデルや社会的役割を改めて検討する必要があることをご示唆いただきました。

本学は、地域中核・特色ある研究大学、そして地方国立大学としての社会的役割を絶えず考え、決断、行動します。「競争から共創へ」、「共にできることは共に」を胸に、今後も岡山大学とJ-PEAKS各大学の挑戦にご期待ください。



TOPICS

2

上山隆大内閣府本府参与らが岡山大学を訪問～共生型連合体と最先端研究施設について意見交換～

上山隆大内閣府本府参与と本学の「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(J-PEAKS)」担当サポーターである名古屋大学の藤巻朗特任教授、信州大学の杉原伸宏副学長が本学鹿田キャンパス(医療系キャンパス)と津島キャンパスを訪問。那須保友学長をはじめとする関係者と意見交換を行いました。

共生型連合体による地域社会との連携強化に向けた意見交換の後、クライオ電子顕微鏡やFIB-SEM装置といった先端機器群を視察や共用、研究拠点形成等について議論しました。

本学は、今後も地域社会や産業界との連携を一層強化し、大学の知を社会に還元する取り組みを積極的に進めていきます。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15051.html



TOPICS

3

事務職員を対象とした新たな学内兼業制度「ジョブシェア制度」中長期プロジェクトを実施～事務職員採用試験に係る広報強化プロジェクト～

本学は、知を活かして新たな価値を創出し、柔軟な対応力と広い視野を備えた“ナレッジワーカー”の育成に取り組んでいます。ジョブシェア制度は、こうした育成方針を具体化する施策の一つであるとともに、「職員の高度化」を担う取り組みです。

今回、中長期ジョブシェアとして4人の事務職員が「事務職員採用試験に係る広報強化プロジェクト」に参加しました。この取り組みにより、採用広報の質の向上だけでなく、現場の声や学生のニーズを反映した発信が可能になりました。

今後も、職員の成長支援と組織力の強化を進めるとともに、多様な人材に選ばれる魅力ある大学づくりを推進していきます。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15037.html



TOPICS

4

大阪大学と研究IRに関する意見交換を実施～IR業務連携の深化について議論～

大阪大学と研究IRに関する意見交換を津島キャンパスで実施しました。大阪大学経営企画オフィスIR部門とは、研究IRに関する定期的な意見交換を実施しており、これまで両大学のIR部門では、IR業務における相互研鑽と質的向上を目指して、機関を越えた連携を進めています。

今回、J-PEAKS を通じて推進する研究力強化とイノベーション創出に貢献するとともに、地域と地球の未来を共創する研究大学としての役割を果たす上で重要な一歩となります。今後も、大阪大学をはじめとする他機関との連携を積極的に進め、ナレッジワーカーの育成と研究マネジメント体制の充実を図ります。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15054.html



TOPICS
5

2025年度「プロジェクトマネジメント基礎研修」の学習証明オープンバッジ授与式を開催

「プロジェクトマネジメント基礎研修」において所定の成果を収めた修了者に学習証明として授与されるオープンバッジ「PM Basic Training Course for University Faculty and Staff」授与式を学長室で開催しました。

授与式後には、大学におけるプロジェクトマネジメントの普及や定着について、学部・大学院教育での可能性や国際的な専門資格であるPMPの取得などについて活発な意見交換が行われ、今後の取組に生かしていくことになりました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15061.html

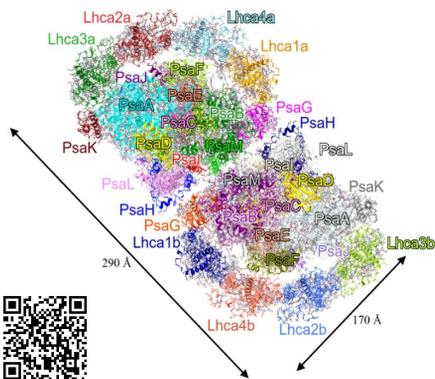
TOPICS
6

藻類から高等植物への進化をつなぐ鍵を発見～ゼニゴケ由来光化学系I-アンテナ超複合体の構造を解明～

本学高等先鋭研究院を構成する異分野基礎科学研究所の蔡弼丞助教とRomain La Rocca助教（研究当時）、沈建仁教授、秋田総理准教授、学術研究院環境生命自然科学学域の本瀬宏康准教授のグループは、クライオ電子顕微鏡を用いて、ゼニゴケ由来の光化学系I (PSI)-クロロフィル *a/b* 結合タンパク質 (LHCI) 超複合体の単量体と二量体の両方の構造を高分解能で解明し、単量体については、水分子の配置まで明らかにしました。これらの成果は、PSI-LHCI超複合体の構造解明にとどまらず、進化の過程でPSIがどのように変化してきたかを理解する手がかりにもなります。

J-PEAKSでは、「植物・光エネルギー開発拠点」を形成し、光合成の機構解明に取り組んでいます。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id1496.html

TOPICS
7

総合技術部医学系技術課の渡邊治之技術専門職員と岡山大学病院医療技術部の岩藤晋臨床工学技士が「令和7年度医学教育等関係業務功労者表彰」を受賞

本学の渡邊技術専門職員と岩藤臨床工学技士が、「令和7年度医学教育等関係業務功労者表彰」を受賞しました。

医学教育等関係業務功労者表彰は、国公立大学において、医学または歯学に関する教育・研究・患者診療等に係る業務に熱心に従事し、周囲の規範となっている職員を対象に行われるものです。

本学は、技術職員の高度化やキャリアパスの整備促進に加え、今後も技術職員の人的育成を戦略的に進めます。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15005.html

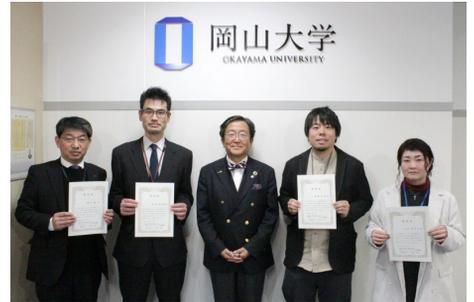


TOPICS
8

本学職員4人を「岡山大学研究開発マネジメント人材」に認定！～研究者の研究専念環境強化・教職員の高度化を推進～

本学は、4人の事務職員を新たに岡山大学研究開発マネジメント人材として認定しました。本学における研究開発マネジメント人材は、研究内容に関する深い理解と洞察を有し、大学等の組織運営に関わる研究開発マネジメント全般に携わる高度専門人材と定められており、本制度は本学がJ-PEAKSを活用して行う研究大学としての改革の一環でもあります。引き続き、社会変革を実現させる研究大学として邁進し、J-PEAKSの推進を牽引します。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15066.html

TOPICS
9

内閣府主催のデジタル田園健康特区フォーラムに那須保友学長らが登壇

内閣府主催のデジタル田園健康特区フォーラム「未来へつなぐ、地域×デジタルの最前線in吉備中央」に、本学の那須保友学長と岡山大学の櫻井淳副病院長、学術研究院医歯薬学域上田浩平助教が登壇しました。本フォーラムは自治体や事業者による先進事例の共有や意見交換を通じて、地域に根ざした健康づくりの可能性と今後の展望を探る目的で開催され、現地参加・オンライン参加をあわせて380人以上の参加者がありました。

デジタル田園健康特区での取り組みも、J-PEAKSとのシナジーを最大限に生かし、地域に根付いたCommunity healthの実現に向けて、全学を挙げて強力に推進しています。特区で活躍する本学研究者らの取り組みにご期待ください。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15060.html

TOPICS
10

中村有里技術専門職員が「令和7年度日本学術振興会男女共同参画推進シンポジウム」に事例紹介の講演者・パネリストとして登壇

本学総合技術部教育支援技術課の中村有里技術専門職員が、技術職員としては初めての講演者・パネリストとして、「令和7年度日本学術振興会男女共同参画推進シンポジウム」に登壇しました。

中村技術専門職員は、本学の紹介とともに、岡山発信で東アジアにおける理工系女子学生や若い世代向けの工学教育を軸として実施してきた事業について紹介しました。

本学は研究力強化や社会実装を成す研究基盤改革として、今後も技術職員の人財育成・高度化を戦略的に進めます。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15006.html



TOPICS
11

TCカレッジTC論文発表会(医工系コース)を開催～研究・教育・協働を支える高度専門技術職員を目指して～

本学総合技術部は、「令和7年度TC論文発表会(医工系コース)」を開催しました。本発表を通して、TC申請者のこれまでの技術力と研究支援力が客観的に提示されるとともに、TCカレッジでの学びや、コース設立に関わる経験が、研究支援、教育支援の質の向上につながっていることが伺えました。

多様な研修プログラムを通して技術職員のスキルアップを図り、地域中核・特色ある研究大学：岡山大学の研究・教育・臨床活動などのパートナーとして取り組みの強化を推進します。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15004.html

TOPICS
12

SXプラットフォームシンポジウム「“借りる”からはじめる新たな研究基盤強化の構築」を開催

本学総合技術部は、「SX(Shared Transformation)プラットフォームシンポジウム～“借りる”からはじめる新たな研究基盤強化の構築～」を開催しました。講演では、わが国の研究基盤を支える研究機器に焦点を当て、他国より研究環境が悪化傾向にあることを踏まえ、研究機器の「買う」から「借りる」への行動変容によって、研究力強化や人材育成といったメリットに加え、わが国の研究機器メーカーの研究開発力強化にもつながることなどに言及。講演後のトークセッションでも、「借りる」という選択肢の有効性について活発な議論が交わされました。

今後も、地域と地球の未来を共創し、社会変革を実現させる研究大学：岡山大学の絶え間ない変化と挑戦と、それを担う技術職員の活動にどうぞご期待ください。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15106.html

TOPICS
13

人工衛星の帯電を「光」で検知するシリコンフォトニクスセンサを開発～宇宙開発を悩ませてきた静電気トラブルに新方式で挑む～

本学環境生命自然科学学域(工)の高橋和教授、高濱渉(岡山大学特別研究生)らの研究チームは、シリコンフォトニクスを応用して、放射線や静電気放電に対する高い耐性と、低消費電力動作が期待できる小型軽量の宇宙用帯電センサを開発しました。

今後は起業を通じて社会実装を進め、人工衛星の故障予知・予防への応用を目指し、将来的には宇宙保険、宇宙天気、月面基地、火星探査などへの展開を目指します。

本学は、J-PEAKSを活用しイノベーションを創出しています。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id1503.html



TOPICS
14学生の挑戦が形に！「おかやまテックガレージ」二期生
成果報告会を開催

本学は学生のものづくりや社会課題解決に向けた挑戦を広く紹介する、「おかやまテックガレージプロジェクト二期生」活動成果報告会を開催しました。

「おかやまテックガレージ」は、地域課題解決や新規事業創出に向けて、アイデアを形にする「学生の秘密基地」です。

当日は熱気あるプレゼンテーションが行われ、自身のアイデアや成果への反応を直接得られる貴重な機会となりました。

本学は、研究シーズやビジネスアイデアの事業化支援、外部メンターによる伴走支援、資金調達や経営相談など、社会実装を包括的に支援しています。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15096.html

TOPICS
15県内企業等の課題を解決するアイデアを学生が考える
「リアルBiz学生アイデアソン2026」を開催

本学研究・イノベーション共創機構は、今回で3回目となる学生によるビジネスアイデアソンを開催しました。

岡山県内の中小企業等が抱える課題を解決するためのアイデアを学生が考案することで、新たな商品やサービスを生み出すきっかけを作るとともに、学生のアントレプレナーシップ教育の機会創出を目的として企画したものです。

今回出たさまざまなアイデアを実現させるために、テックガレージ等を活用しながら学生の商品開発等を後押しし、今後も地域のニーズに応えた実践的なアイデアソンを企画します。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15097.html

TOPICS
16

前立腺がんに対するPSMAルテチウム療法を導入

既存の治療が効きにくい「転移性去勢抵抗性前立腺がん」に対し、がん細胞をピンポイントで攻撃する最新の放射線治療を導入しました。

前立腺がん細胞の表面には「PSMA」という目印が多く存在します。今回導入した治療は、この目印に結合する薬剤に治療用の放射性物質を付け、体内からがんを狙い撃つという画期的なものです。本治療の導入により、これまでこれ以上の治療が難しいとされた患者さんに対しても、副作用を抑えつつ高い治療効果を提供することが可能となります。地域の中核病院として最先端の医療を提供し、前立腺がんの克服に向けた重要な一歩を踏み出します。

本学は、J-PEAKSの取り組みを通じて、Well-being社会の実現を目指しています。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id1502.html



TOPICS
17国内先駆けの「コロナ・アフターケア外来」開設から5年～
診療実績から見えてきたコロナ後遺症の課題と予後～

岡山大学病院総合内科・総合診療科の大塚文男教授が国内の総合病院として全国で2番目に開設した「コロナ・アフターケア外来」は、今年で開設5年を迎え、県外の後遺症診療施設とも診療ネットワークを通じた情報交換を継続しています。一貫して対面診療を重視してきた中で、今回5年間で約1,300人を診療して見えてきたコロナ後遺症の実像を取りまとめ、わが国の医療・ヘルスケアの重要な視点を示しました。

J-PEAKSにおいても、地域で支える医療モデルの構築し、他地域への横展開を進めています。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id1504.html

TOPICS
18

地域共創型取り組み「おかやまシネコカルチャー（協生農法）プロジェクトin新見市」～企業の余剰資源を活用した鳥獣害対策フェンスの設置と地域交流の深化～

本学は「おかやまシネコカルチャー（協生農法）プロジェクトin新見」の活動を岡山県新見市内で実施しました。

圃場には、伝統工芸である神代和紙の原料となる楮（こうぞ）や三椏（みつまた）のほかに、数十種類におよぶ果樹や野菜などが混植されており、協生農法の理念に基づいた多様な生態系の構築が進められています。農作業の実践のみならず、伝統工芸である神代和紙の原料生産や加工体験、さらには地域住民との交流を通じた薪ストーブ作りなど、楽しみながら地域文化を学ぶ多角的な交流の形ができつつあります。

引き続き、産学官民の緊密な連携を通じて、自然共生と地域創生を両立させる実践的な学びの場を広げ、持続可能な社会実装モデルの構築を推進します。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15089.html

TOPICS
19岡山大学発ベンチャー・株式会社オーディオストックが
「Technology Fast 50 2025 Japan」に選出

本学発ベンチャー・株式会社オーディオストックが、デロイト トーマツ グループ主催のテクノロジー・メディア・通信業界の成長企業ランキング「Technology Fast 50 2025 Japan」に選出されました。

選出された株式会社オーディオストックは、50社中33位にランクインしました。なお、本ランキングにおいて中四国地方に本社を置く企業の選出は同社のみであり、また、中国地方に本社を置く企業が本ランキングに選出されるのは、ここ10年以上がなく、地域にとっても快挙となります。

本学は、スタートアップ支援を通じて地域や国際社会におけるイノベーション創出に尽力しています。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15050.html



TOPICS
20

大蘆彩夏大学院生が「第16回日本学術振興会育志賞」を受賞

本学大学院環境生命自然科学研究科(博士課程)の大蘆彩夏大学院生が、「第16回日本学術振興会育志賞」を受賞しました。

日本学術振興会育志賞は、将来、我が国の学術研究の発展に寄与することが期待される優秀な大学院博士課程学生を顕彰することで、その勉学および研究意欲を高め、若手研究者の養成を図ることを目的に創設されました。

本学は研究大学として大学院生、特に博士号取得を目指す博士課程の大学院生は、「学生」ではなく「研究者」として取り扱っています。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/topix/topix_id798.html

TOPICS
21

中四国・播磨HeReNet～本学が岡山理科大学においてヘリウムガスの回収(フェーズ1)を開始～

本学の研究機器共用体制・整備等強化促進に関するタスクフォースは、「中四国・播磨ヘリウムリサイクル事業ネットワーク(通称:中四国・播磨HeReNet)」の連携機関である岡山理科大学(岡山市北区)を訪問。本事業を推進すべく、核磁気共鳴装置(NMR装置)からヘリウムガスの回収(フェーズ1)を開始しました。



これまでに4機関で回収が開始され、3月にはさらに2機関で回収が開始される予定です。HeReNet事業は関係者の協力のもと、想定より大幅に早くフェーズ1が進んでいます。

本学は、「中四国・播磨HeReNet」および「HeliGet(使用済設備から液体ヘリウムを回収)」を通じて、学内外に液体ヘリウムを供給することで、液体ヘリウムを使った研究・開発の裾野を大いに広げることを目指しています。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15067.html

TOPICS
22

DevFest Okayama, Japan 2025を開催

「DevFest Okayama, Japan 2025」が岡山で初めて開催され、大学生や高校生、AI推進を担う社会人など、220人を超える参加者が集まりました。

「DevFest Okayama, Japan 2025」は、Googleのプロフェッショナルを多数迎え、AI、クラウド、OSS、デザイン思考といった最新技術を1日で網羅できる、開発者、研究者、学生など、AIの最前線に興味のあるすべての方が参加できるカンファレンスです。パネルディスカッションでは、「生成AIが変える”学び”と”仕事”の未来」をテーマに、社会人パネリストと学生による活発な意見交換がなされ、熱気あふれる一日となりました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15014.html

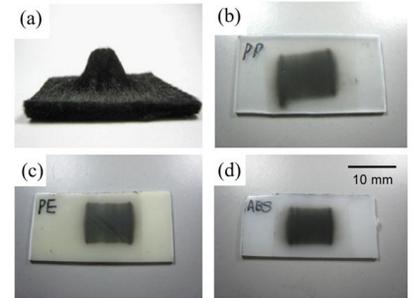


TOPICS
23

『絡み合う』だけで材料になる～短炭素繊維の新しい3D成形法を開発～

本学学術研究院環境生命自然科学学域の于洪武助教（研究当時）、池田直教授、狩野旬研究教授らの国際共同研究チームは、短炭素繊維を「吹き付ける」だけで、接着剤を用いることなく、高速かつ立体的に成形する新技术「繊維エアゾル堆積法」の開発に成功しました。リサイクル炭素繊維や多様な短繊維素材の有効活用や、水処理フィルター、次世代電極材料などの創製を加速する画期的な成果です。

J-PEAKSにおいても、クリーンエネルギー創出など新規の技術開発に取り組んでいます。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id1490.html

TOPICS
24

最先端工場に潜入！未来の半導体技術を体験～マイクロンメモリ 日本の工場を訪問～

本学が先導して構成する岡山半導体研究教育推進委員会は、マイクロンメモリジャパン株式会社広島工場を訪問し、学生24人及び教職員が参加しました。

同工場は、AIに使われる最先端のメモリを生産し、高い世界シェアを誇る世界最先端の半導体製造工場です。製造工程を目の当たりにする貴重な機会となり、学生たちはその技術力と品質管理体制に感銘を受けました。見学後のアンケートでは、約65%の学生が「研究へのモチベーションが向上した」と回答し、自身の専門性を生かせる可能性を感じている様子が見られました。

本学は、今後も産業界との連携を強化し、学生の皆さんが広く産業の最先端で活躍できるよう、教育・研究体制の充実を図るとともに、次世代の半導体人材育成に尽力していきます。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15090.html

TOPICS
25

人事戦略のさらなる推進に向けて 東京農工大学と意見交換会を開催

本学は、J-PEAKS採択大学である東京農工大学と研究マネジメント人材(URA)に関する制度についての意見交換会を開催しました。

URAや研究開発マネジメント人材制度などの意見交換を通じて課題や事例を共有し、連携を一層深める機会となりました。

本学はJ-PEAKS採択大学に限らず、さまざまな大学との連携強化に努めています。わが国の研究大学群の山脈(PEAKS)形成のために、本学だけにとどまらないイノベーションの創出、わが国全体の研究力の発展等を牽引し、社会変革の実現に向けた戦略的な取り組みを進めています。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15104.html



TOPICS
26

総合技術部の石原すみれ技術専門職員が日本実験動物協会「協会会長奨励賞」を受賞

本学総合技術部機器分析・動植物資源技術課の石原すみれ技術専門職員が、「第21回実験動物技術指導員研修会」において、「協会会長奨励賞」を受賞しました。本賞は、同協会が認定している実験動物技術指導員を対象に、教育・認定事業において貢献した実験動物技術指導員を表彰するものです。

石原技術専門職員は、同協会が指定する特例認定大学での実習指導や教材の作成協力を行い、実験動物技術の教育・普及などに積極的に努めてきました。

本学総合技術部は、全学の技術職員の連携を深めるとともに、多様な研修プログラムを通して技術職員のスキルアップ、高度化を図ることにより、地域中核・特色ある研究大学：岡山大学の研究・教育・臨床活動などのパートナーとして取り組みの強化を推進していきます。



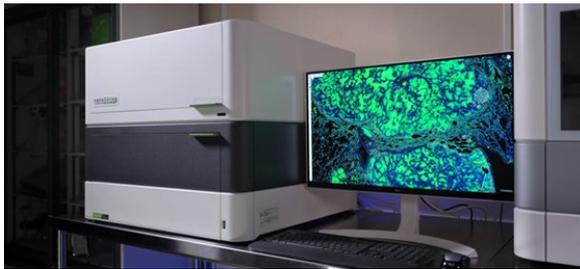
参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15110.html

イチオシの研究設備

【GeoMx(デジタル空間プロファイラー)】

GeoMxは、革新的な解析技術で、組織切片内のRNAやタンパク質の空間的な発現パターンを高精度に可視化・定量するためのデジタル空間プロファイリングシステムです。FFPEや新鮮凍結組織から、細胞の位置情報を保持しながら遺伝子やタンパク質の発現を解析できます。組織内の特定領域を画像ベースで選択し、その領域ごとの発現プロファイルを取得。最大で18,600種類のRNAや570種類のタンパク質を同時に定量可能です。本装置は、がん研究(腫瘍微小環境の解析)、神経科学(脳組織の局所発現解析)、免疫学(免疫細胞の空間的分布)、バイオマーカー探索(治療効果予測など)などに利用されています。ゲノム医療総合推進センターでは、GeoMxによる受託解析を受け付けております。詳細につきましては、お気軽にお問い合わせください。

研究設備機器共用システム「コアファシリティポータル(CFPOU)」の以下のURLから詳細を閲覧可能です。



【管理者】

岡山大学病院ゲノム医療総合推進センター

J-PEAKSの取り組みとして、大型分析装置等の中四国の機器共用ネットワーク拠点の構築や、先端設備の整備、技術人材の高度化等を通じて、イノベーション創出の「知」と「技」のメッカを目指しています。



本装置や共同利用の設備に関するお問い合わせはこちら：cfp@okayama-u.ac.jp

参考 <https://corefacility-potal.fsp.okayama-u.ac.jp/equipment/view/1057>